令和４年度．第２号．７月発行．

西尾東高だより

修学旅行（２年） ６月１日(水)～３日(金)

3日間で、広島では厳島神社、原爆資料館を訪れ、神戸では自由散策とディナークルーズを経験。大阪では USJ で1日過ごし、大満足の3日間でした。

「平和を願って」　（２年２組　三輪花梨）

私が修学旅行で印象に残った事は広島の平和記念資料館です。旅行前の事前学習で見た時とは全く違いました。被爆してひどい火傷を負った人の写真や、川へ逃げ込む人々の様子が描かれた絵、当時の衣服や持ち物を見ていると今まで別の世界だと思っていたものが急に現実味を増しました。特に驚いたのは建物の様子です。爆風によって歪んだ鉄筋や原爆が落ちる前まで人が座っていたと思われる跡を見て、私たちの普段の生活からは起こらないような状態でした。原爆が投下されてから 77 年が経とうとしています。被爆者の高齢化によって当時の様子について話せる人が減ってきている中、平和記念資料館は当時の状況について少しでも知ることができる貴重な空間です。インターネットで調べることも良いと思うけれど、実物をよく見ることで、さらに得るものがあると思います。二度とこのようなことが起きないようにするために、後世へ語り継ぐべきだと思いました。

「修学旅行で学んだ大切な２つの事」　（２年６組　矢藤龍青）

私は修学旅行で学んだことが２つあります。１つ目は友情です。この三日間で友達と多くの時間を過ごしました。友達とホテルやバス、新幹線、USJ、神戸散策などでたくさん話したり、たくさん写真を撮ったり、その時間がとても楽しかったです。まだ話したことがなかった人とも仲良くなることができ、２ヶ月しか経っていませんが、クラス全体の仲も深まってきたように感じられます。２つ目は感謝です。天気にも恵まれ、こうして修学旅行に行けた事は先生や親への感謝はもちろん、生徒全員がコロナ対策をしてくれたことへの感謝もしなければならないと思います。そして感謝についてもう一つ、それは今生きていることへの感謝です。私は広島平和記念資料館で多くの人、子供が亡くなったのを目の当たりにしました。改めて命の尊さについて学び、今生きていることへの感謝を忘れずに、そして、修学旅行で学んだことを日々の生活に活かしながら過ごしていきたいです。

大学出前講座

６月２日(木)

～大学出前講座とは～
３年生を対象に、文系理系合わせて 10 の学問分野の大学の先生をお招きして、出前授業を行っていただきました。大学での「学び」に触れる貴重な機会となりました。

山形大学　～工学部全体について～　（３年・理系生徒）

今回の講義で「未来」のことについてたくさん考えさせられました。今までは日本もこの先平和で安定した国のままであるだろうと思っていましたが、今日の講義で現実を見て、親と全然違う、つまり、今までの“あたりまえ”では通用しない世の中を歩んでいかなければならない、怖さ・不安を感じています。講師の先生が元教員・親の立場として話してくださったおかげで、より身近に感じ、言葉の一つ一つが身に刺さりました。

↑
講座の様子

静岡大学　～法学をどう学ぶのか～　（３年・文系生徒）

今回の講義で、高校と大学ではまったく思考法が違うのだと思いました。高校では、まず与えられた知識を覚えることが前提だと感じました。しかし、法学においては、条文が実際に使われた事例を精査し、条文の背景、根底の理念・思想を理解することが大切である。そして、どのような場合にその条文を適用すればより良い解決が得られるのか、ということを自ら理解する姿勢をもち、実行することが大学の学習法であり、思考法なのだと思いました。

校外学習（１年）６月３日(金)

６月３日の梅雨の晴れ間、１年生は校外学習として明治村を訪れました。村内では学校オリジナルのクイズスタンプラリーに挑戦し、明治の歴史や文化について学びました。また、明治時代の扮装やグルメを楽しみ、クラスメイトとの親睦を深めることができました。

遠足（３年）

６月３日(金)

３年生は遠足で長島スパーランドに行きました。